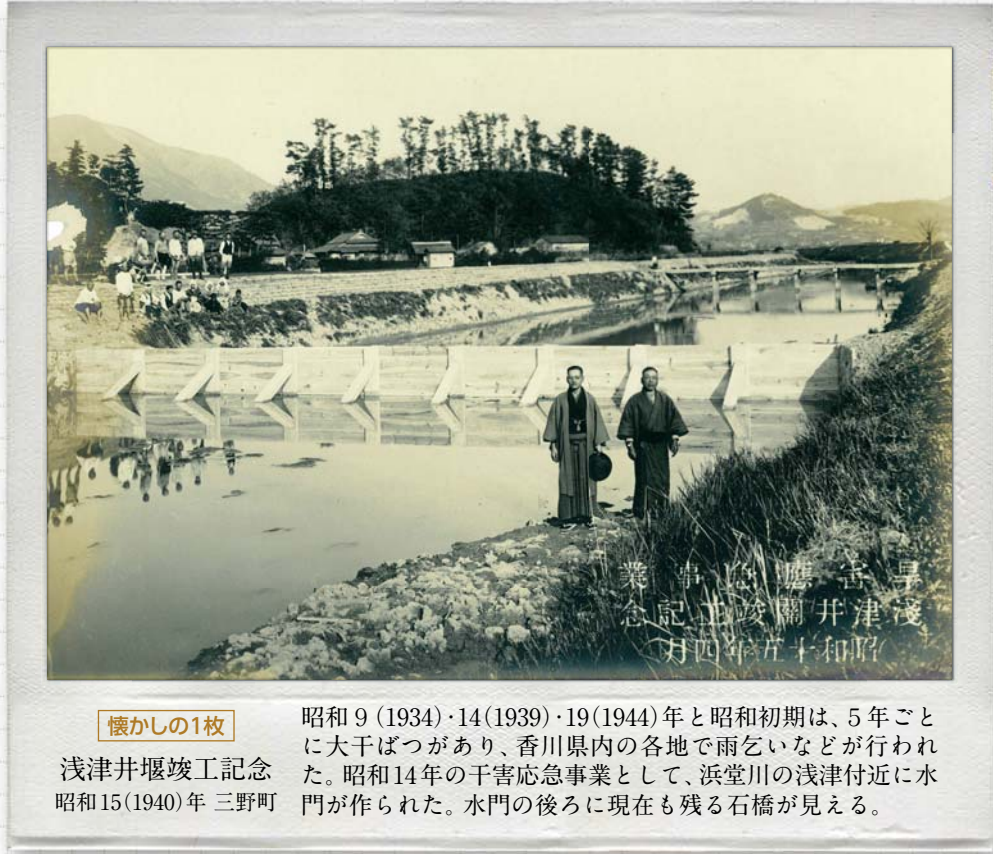




蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 55

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

浅津井堰竣工記念
昭和15(1940)年 三野町

昭和9(1934)・14(1939)・19(1944)年と昭和初期は、5年ごとに大干ばつがあり、香川県内の各地で雨乞いなどが行われた。昭和14年の干害応急事業として、浜堂川の浅津付近に水門が作られた。水門の後ろに現在も残る石橋が見える。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

「思い出の1ページ」

「ああ、確かにこの浅津井堰は、家のすぐ側を流れる浜堂川にありましたよ」と当時の記憶を振り返るのは、三野町の大平和法さん(75)。

「写真に見える堰の柱は御影石でできていてね。田植えの前になると、石柱の間に4、5枚の板をはめ込んで、その中に土砂を入れ、川に水をためていました。当時は麦も栽培していたので、出荷が終わった6月上旬くらいに設置していたと思います。その後、稲刈りの時期が近付くと、今度は田んぼを乾かす必要があります。川の水を抜くために、浅津地区で田んぼを持つ人々が堰の板を外す作業をしていました。」

大変だったのが、台風の時です。浜堂川付近は水がたまりやすい地形のため、雨が多く降ると稲が見えなくなるくらい、田んぼが冠水していたんです。この浅津井堰も、写真の奥に写る石橋も水没していました。そういうときは、水を急いで流さないといけませんから、堰の端側の板を外して調整していました。板を外す人は、流されないようにと体にロープを縛って2、3人を持ってもらいながら作業していたと聞いています」

「あ、確かにこの浅津井堰は、家のすぐ側を流れる浜堂川にありましたよ」と当時の記憶を振り返るのは、三野町の大平和法さん(75)。

「写真に見える堰の柱は御影石でできていてね。田植えの前になると、石柱の間に4、5枚の板をはめ込んで、その中に土砂を入れ、川に水をためていました。当時は麦も栽培していたので、出荷が終わった6月上旬くらいに設置していたと思います。その後、稲刈りの時期が近付くと、今度は田んぼを乾かす必要があります。川の水を抜くために、浅津地区で田んぼを持つ人々が堰の板を外す作業をしていました。」

とって絶好の遊び場になっていたと言います。

「その頃はプールなんてなかったですからね。泳ぎを覚える場所と言ったら、みんなこの川でしたよ。小さい子から中学生まで集まって、石橋から飛び込んだり、ボラを見つけたりしていました。」

当時はこのような堰がいろいろなところがありました。約20年前、松崎の唐崎小橋近くに自動で制御される水門ができてから、浅津井堰は無くなってしまいました。堰に使われていた御影石の柱は、近所の大坊池公園に移されて、今でも当時の面影を残していますよ」



先 月、東京の名門進学校「開成高校」の2年生50人が修学旅行で大島島を訪れたのをご存知ですか。この出来事は、市公式フェイスブックほかテレビや新聞でも取り上げられ、話題となりました。島では、シーカヤック体験や無人島散策などを行い、都会では味わえない経験に学生たちはとても満足した様子でした。

市内には大島島のような穴場スポットがまだまだあります。今後力を入れて発信していきますよ！